

眼科

○ 眼科の概要

1. 研修施設

埼玉医科大学病院 眼科（病床40床）

2. 指導者

指導責任者 篠田啓（教授、平成2年慶應義塾大学医学部、日本眼科学会指導医、専門医）

指導医師 21 名

3. 臨床研修プログラムの特色

当教室は症例が豊富にあり、特に失明原因として上位を占める網膜硝子体疾患と緑内障の臨床が強い特色がある。また平成27年度より、先端の角膜パーツ移植を開始したことにより、網膜硝子体、緑内障、角膜と眼科の主要な3つの分野をバランス良く学べる。また神経眼科、涙道、眼腫瘍、小児眼科、特殊コンタクトレンズなどの専門外来も設けており、幅広い研修を行うことができる。可能な限りわかりやすく主要疾患の教育を行うこと、実地主義に徹して手術介助から画像読影まで経験を通して（自分の眼と身体で体験して）眼科臨床を学ぶことに主眼を置いた教育を行っている。医師を育てるのは症例であるという信念のもと、一つ一つの症例を大事にしてともに学んでいきたいと考えている。当教室は網膜硝子体と緑内障で全国有数の手術件数を有しておりこのような学びを実践するのに十分な症例がある。

○ 眼科の学習目標

一般目標または一般学習目標（GIO）

臨床医として必要な基本姿勢・態度を身につける。

また、眼科疾患の診断と治療を通じて臨床医としての基礎および眼科疾患の基礎を習得する。

行動目標（SBOs）

1. 眼科的症状の問診が取れる（視力障害、視野障害、複視、飛蚊症、結膜の発赤(出血、充血)等）。
2. 視力検査、屈折検査、視野検査などの基本的視機能検査が実践でき、結果の解釈ができる。
3. 細隙灯を用いて角膜、前房、水晶体などの前眼部所見が取れる。
4. 隅角鏡を用いて隅角所見が取れる。
5. 眼底所見が取れる。
6. フルオレセインおよびインドシアニン蛍光眼底造影の基本所見を読影できる
7. 光干渉断層計の基本所見を読影できる。
8. 代表的疾患の診断ができるようになる（結膜炎、角膜炎、白内障、緑内障、ぶどう膜炎、糖尿病・高血圧・動脈硬化による眼底変化等）。
9. 代表的疾患の初期検査計画が立案できる。
10. 代表的疾患・病態の治療方針が理解できる。
11. 指導医とともに受け持ち医として病棟の患者の診察を経験する。
12. 白内障手術、緑内障手術、網膜硝子体手術、角膜移植術等の手術介助を指導医とともに経験する。
13. クルズスにて厚生省の卒後臨床研修到達目標にある基礎知識を学ぶ。

研修方略（LS：Learning Strategies）

指導責任者より総括的オリエンテーションがあり、病棟・外来各医長より各々の仕事内容・方法についてオリエンテーションを行う。

病棟は上級医のもとに、研修医1名、ベッドサイド学生1名が1チームとなり、実際の臨床経験を積む。さらに各研修医にはスタッフ医師が指導医として直接に指導に当たる。

週1回の総回診および週1回の手術前症例カンファレンスがあり、周術期の検査と管理を学ぶ。週1回の勉強会を行い画像検査の読影や最新の文献を学ぶ。

また、すべての受け持ち患者の手術に手術介助として参画し、治療過程を学ぶ。

上記の経験すべき病態・疾患について受け持ち患者のレポートを提出する。手術症例につき、その診断、治療法、手術法などについてレポートを提出する。

白内障基本手技の習得を目的として豚眼を用いた顕微鏡下の模擬手術（Wet lab.）での実習を行う。

研修評価法（EV：Evaluation）

研修終了時に研修担当指導医による評価を受ける。EPOC評価項目の他、各行動目標の達成度につき、本人および評価者と確認する。

到達目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 問診が適切にできる。	()	()
2. 上級医師の指導の下で、患者への必要な指示および処置ができる。	()	()
3. 指導医や専門医に適切にコンサルテーションできる。	()	()
4. 症例提示ができて、チーム医療のメンバーと討論ができる。	()	()
5. 診療計画を作成することができる。	()	()
6. 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し、活用できる。	()	()
7. 手術記録が適切に記載できる。	()	()
8. 術前に必要な検査を選択でき、オーダーできる。	()	()
9. 前眼部所見をとることができる。	()	()
10. 適切な輸液管理ができる。	()	()
11. 術後の合併症に対する適切な治療法を理解し、実践できる。	()	()
12. 手洗い、術野の消毒などの清潔操作が正しくできる。	()	()

到達目標と評価表（8週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 眼底所見をとることができる。	()	()
2. 画像読影の基礎が理解できる。	()	()
3. レーザー治療が指導医のもとで実践できる。	()	()
4. 手術機器のセッティング、取り扱いが理解できる。	()	()
5. 顕微鏡下手術介助が指導医のもとで実践できる。	()	()
6. 術後評価が理解し所見をとれる。	()	()

週間スケジュール

曜日	実 習 内 容										
	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
月		外来 or 病棟				外来 or 病棟				医局会	
火	OPE 後カン ファ(毎週)	外来 or 病棟				外来 or 病棟					
水	OPE 前カン ファ(隔週)	外来 or 病棟				外来 or 病棟					
木		病棟						ウェットラボ(手術練習) 第二研究室		白内障 OPE 前 カンファ	
金	OPE 前カン ファ(隔週)	担当患者術後回診 病棟				外来 or 病棟					
土		病棟				外来 or 病棟					

4. 研修に関する問合せ先

教育主任 蒔田 潤

E-mail : mganka@saitama-med.ac.jp